

ほっかいっぱいみさきっ子

御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和5年度 10月

アカウミガメ飼育でオンリーワンの学校へ

創立150周年記念を11月に迎える御前崎小。今回は、本校のアカウミガメ飼育活動について紹介します。46年の歴史ある活動として、親の代から子供たちへ脈々と受け継がれ、地域に支えられながら、アカウミガメを育てるオンリーワンの学校として、伝統と誇りをもった活動となっています。



観察クラブ活動の一環として始まったアカウミガメの飼育活動

本校のアカウミガメの飼育活動は、昭和52年、学校の観察クラブの活動の一環として始まりました。



アカウミガメは国際的な絶滅危惧種に指定されており、御前崎市は、「御前崎のウミガメ及びその産卵地」として昭和55年、国の天然記念物に指定されています。本校で行っている飼育活動を、生命の大切さを学ぶ機会に留まらず、自分や郷土を見つめ直し、自他を愛し郷土を愛する子供たちを育てる活動に発展させたいと考え、保護者や地域の

方々の協力を得ながら今日まで取組が継続されています。

アカウミガメの飼育を通して子供たちが学ぶもの



毎年5年生が中心となり、一昨年9月に孵化したアカウミガメの赤ちゃんを、6月の放流まで大切に育てます。

今年度は開校150周年ということもあり、5年生はアカウミガメを育てるオンリーワンの学校として、アカウミガメのことや

それらを取り巻く環境について学んだことを広く発信していこうと考えています。総合的な学習の時間を使って、専門家の方から飼育の仕方を聞いたり、全国の関係機関



の活動を調べたりしながら学びを深めています。また地域のボランティア団体の海岸清掃に参加するなど、支援してくださっている地域の方々との交流を通して、郷土を愛し、共に支え合って生きていくことの大切さを学んでいます。

御前崎の未来を創る私たちにできること



子供たちが進む未来には、様々な困難があるかもしれませんが、しかし、御前崎小学校で体験するこの「アカウミガメの飼育」が、子供たちに生きることの尊さを教え、人と人が支え合って生きることの大切さを実感させ、困難を乗り越えていく糧になると信じています。

今年放流したアカウミガメが30年後に戻ってくる御前崎が、美しい海岸・美しい心であり続けるよう、子供たちは今日も、未来を創る私たちにできることは何かを考え、前を向いて進んでいます。

(校長)